

TAY TWO



2012年1月12日

# 株式会社テイツー (JASDAQ 7610)

2012年2月期 第3四半期 決算説明資料



<http://www.tay2.co.jp>

**OMTWO  
TAYTAY**

**2012年2月期 第3四半期 決算説明**

**及び**

**2012年2月期 通期業績予想**

# 2012年2月期 第3四半期累計期間 業績サマリー

## ● 比較損益計算書(個別)

(単位:百万円)	2011年2月期 3Q累計期間	2012年2月期 3Q累計期間	増 減
売上高	26,507	24,880	△1,627
営業利益	403	274	△129
経常利益	386	281	△104
税引前当期純利益	383	△231	△614
法人税等	197	△36	△234
四半期純利益	185	△194	△380

### アイ・カフェ事業売却の影響

短期的なインパクト

➡ 特別損失の計上  
当期の業績のみに影響

## ● 比較貸借対照表(個別)

(単位:百万円)	2011年2月末	2011年11月末	増 減
流動資産	5,962	6,961	998
固定資産	5,294	4,590	△704
総資産	11,257	11,551	293
負債	5,738	6,360	621
純資産	5,519	5,191	△328
負債純資産合計	11,257	11,551	293

中長期的なインパクト

➡ フリー・キャッシュの増加  
・売却代金による手元流動性の向上  
・税務メリット

今後の新規事業展開に向けて  
資金余力が大きく拡大

## 2012年2月期 第3四半期累計期間 比較損益計算書

(単位:百万円)	個 別		増 減		連結(ご参考) 2011年2月期 3Q累計期間
	2011年2月期 3Q累計期間	2012年2月期 3Q累計期間	増減額	増減率	
売上高	26,507	24,880	△1,627	△6.1%	27,144
売上原価 売上原価率	19,356 73.0%	17,984 72.3%	△1,372	△7.1%	19,813 73.0%
売上総利益 売上総利益率	7,150 27.0%	6,895 27.7%	△255	△3.6%	7,330 27.0%
販売費及び一般管理費 販管費比率	6,746 25.5%	6,620 26.6%	△126	△1.9%	6,917 25.5%
営業利益 営業利益率	403 1.5%	274 1.1%	△129	△32.0%	413 1.5%
経常利益 経常利益率	386 1.5%	281 1.1%	△104	△27.2%	390 1.4%
四半期純利益 四半期純利益率	185 0.7%	△194 △0.8%	△380	-	185 0.7%
1株当たり四半期純利益	358円	△375円			

※2011年3月に連結子会社インターピア㈱が連結の範囲から除外されたため、当期より個別決算のみとなっております。

# 2012年2月期 第3四半期累計期間の状況

第1・第2四半期会計期間	第3四半期会計期間
<b>○ 売上高の状況</b>	
<p>東日本大震災の影響を最小限に止めたものの新品ゲームの発売延期等により、前期比で減収。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>● 発売延期が多かった新品ゲームを含め、全品目で苦戦</li><li>● 関東地方の計画停電、東北地方のアイ・カフェの一時的な営業中止の影響を最小化</li></ul>	
<b>○ 利益の状況</b>	
<p>売上高の減少により減益。資産除去債務の計上による四半期純利益の減少。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>● 資産除去債務計上による特別損失341百万円</li></ul>	<p>次の成長に向けた投資の実施による利益減</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ ECエンジン(COMPANY)の入れ替え</li><li>・ 店舗改装の前倒し実施</li><li>・ 加古川別府店の出店</li></ul>
<b>○ 経営改革、キャッシュ・フロー創出、経営リソースの選択と集中</b>	
<p>新経営体制のもと、長期継続的な成長への経営・事業基盤固め</p> <ul style="list-style-type: none"><li>● アイ・カフェ事業部門の譲渡</li><li>● もったいないファンドの解散</li><li>● 不採算店舗の閉鎖を期初計画より前倒しで実施</li><li>● 費用削減及び業務スペース拡大のため、東京本部移転</li></ul>	<p>利益圧迫の要因とはなるものの、基盤強化のために必須と考えて、戦略投資を実施</p>

## 2012年2月期 第3四半期 貸借対照表【個別】

(単位:百万円)	2011/2末		2011/11末		増減額
	金額	構成比	金額	構成比	
流動資産	5,962	53.0%	6,961	60.3%	998
現預金	1,452	12.9%	1,156	10.0%	△295
売掛金	365	3.3%	330	2.9%	△35
商品	3,502	31.1%	4,626	40.1%	1,123
貯蔵品	35	0.3%	24	0.2%	△10
その他	606	5.4%	822	7.1%	216
固定資産	5,294	47.0%	4,590	39.7	△704
有形固定資産	1,893	16.8%	1,700	14.7	△193
建物及び構築物(純額)	1,062	9.4%	937	8.1	△125
その他(純額)	830	7.4%	762	6.6	△67
無形固定資産	278	2.5%	276	2.4	△1
投資その他の資産	3,123	27.7%	2,613	22.6	△510
差入保証金	1,581	14.0%	1,261	10.9	△319
その他	1,541	13.7%	1,351	11.7	△190
総資産	11,257	100.0%	11,551	100.0%	293

(単位:百万円)	2011/2末		2011/11末		増減額
	金額	構成比	金額	構成比	
負債合計	5,738	51.0%	6,360	55.1%	621
流動負債	3,578	31.8%	4,268	37.0%	690
買掛金	1,438	12.8%	1,960	17.0%	521
短期借入金	-	-	700	6.1%	700
1年内長期借入金	725	6.4%	575	5.0%	△150
その他	1,414	12.6%	1,032	8.9%	△381
固定負債	2,159	19.2%	2,091	18.1%	△68
長期借入金	1,353	12.0%	924	8.0%	△429
資産除去債務	-	-	403	3.5%	403
その他	805	7.2%	762	6.6%	△42
純資産	5,519	49.0%	5,191	44.9%	△328
株主資本	5,493	48.8%	5,184	44.9%	△308
評価換算差額等	△2	△0.0%	△2	△0.0%	0
新株予約権	28	0.2%	8	0.0%	△20
負債純資産合計	11,257	100.0%	11,551	100.0%	293

## 2012年2月期 第3四半期累計期間 キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)	2012/2期 第3四半期累計期間 11/3~11/11
営業キャッシュ・フロー	△378
投資キャッシュ・フロー	219
財務キャッシュ・フロー	△137
現金及び現金同等物の増減額	△295
現金及び現金同等物	1,073

### 営業CFの内訳

(単位:百万円)	2012/2期 第3四半期累計期間
税引前当期純利益	△231
減価償却費	419
たな卸資産増減額	△1,124
仕入債務増減額	521
その他	503
小計	90
法人税支払等	△468
営業CF計	△378

#### ○営業キャッシュフロー

- 12月の繁忙期に備えた棚卸資産の増加による支出の影響等で、マイナス

#### ○投資キャッシュフロー

- アイ・カフェ事業部門の売却により、プラス

#### ○財務キャッシュフロー

- 長期借入金の返済及び配当金の支払の影響で、マイナス

## 2012年2月 通期業績予想

(単位:百万円)	2011年2月期 実績		2012年2月期 計画		前期比	
					増減額	増減率
売上高	38,897	100%	37,000	100%	△1,897	△4.9%
営業利益	894	2.3%	700	1.9%	△194	△21.7%
経常利益	878	2.3%	700	1.9%	△178	△20.3%
当期純利益	391	1.0%	100	0.3%	△291	△74.4%

※当期純利益の予想は、会計基準の変更による資産除去債務 341百万円を特別損失の計上、アイ・カフェ部門の会社分割に伴う102百万円の特別損失の計上を考慮しております。

EPS	755円	193円
-----	------	------

※連結子会社であるインターピア株式会社が2011年3月から連結の範囲から除外されることとなったため、2012年2月期の業績予想は個別業績予想となります。

# 利益配分に関する基本方針

## 基本方針

① 業績に応じた配当の実施(配当性向25%以上)

② 将来の事業展開に備えた内部留保の充実

※特別な損益等の特殊要因により、税引後当期純利益が大きく変動する場合には、その影響を考慮した配当を実施

## 配当性向の実績と計画

	第17期(実績) 2006/3-2007/2	第18期(実績) 2007/3-2008/2	第19期(実績) 2008/3-2009/2	第20期(実績) 2009/3-2010/2	第21期(実績) 2010/3-2011/2	第22期(予想) 2011/3-2012/2
当期純利益	198百万円	634百万円	138百万円	741百万円	387百万円	100百万円
配当金	112百万円	131百万円	130百万円	153百万円	134百万円	113百万円
配当性向	56.7%	20.8%	94.7%	20.7%	34.7%	113.9%

※21期までは連結当期純利益および連結配当性向

※2011年7月14日付「配当予想に関するお知らせ」にて、第22期(2012年2月期)の1株当たり配当金予想を公表しております。  
第2四半期末:110円、期末配当金:110円 → 1株あたり年間配当:220円

TAY TWO

## 今後の事業方針

Reset Everything ~ テイツーは変わります

# 長期・継続的な成長に向けた取組み

長期継続的な成長の実現のため、等身大で着実な経営基盤固めを実現

## 第1フェーズ

経営の原点に立ち返り、現場に近いところで、  
等身大で着実な経営基盤固め。

## 第2フェーズ

テイツーの  
長期継続的  
成長

2011年5月～

- 経営体制の刷新
- 組織改革の実施
- 「テイツー“もったいない”ファンド」の解散
- アイ・カフェの事業部門譲渡
- ソーシャル・ネットワーキングサービス(SNS)を活用した「消費者参加型マーケティングECサイト」事業の開始

→ 経営資源の選択と集中  
フリー・キャッシュフローの創出

→ ECサイト運営ノウハウの向上  
取り扱い商材の拡大

2011年9月～

上半期で実現した成果、打ち出した方向性を踏まえ、  
下半期より更なる経営基盤の強化に向けた取組みを開始

「人・物・金」の  
経営資源を投入

# 経営改革の加速：新ECサイトのオープン

今後のECビジネスの拡大に向けて、新ECサイトをオープン

新ECサイト **furu1online.net**  
フルイチオンライン

～屋号の変更へ、幅広いお客様をターゲットに～

(2011年11月2日オープン)



## ○ 新ECサイトの特徴

- ・サイトデザイン一新 & 表示スピード大幅向上
- ・モバイル機能強化
- ・商材の拡大に対応及びスマートフォン対応
- ・その他顧客の利便性向上を実現

## ○ 新しい機能

- ・レコメンド機能
- ・かんたんおためし査定
- ・お気に入りリスト(モバイル)
- ・My検索機能(モバイル)

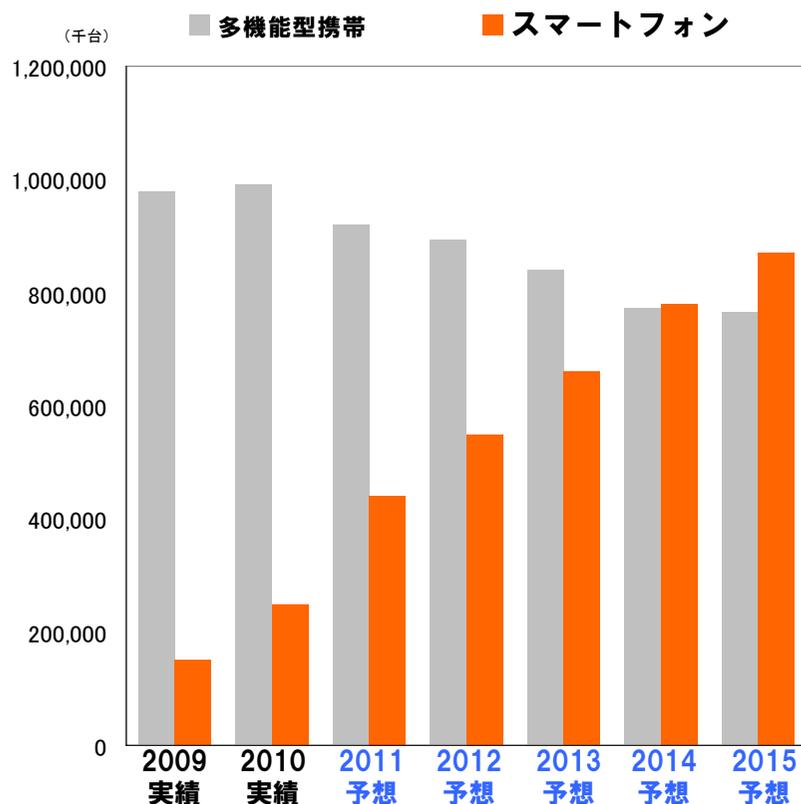
今後も拡大が続くことが見込まれるECビジネスへの取組みを強化する。

# 経営改革の加速：「スマートフォンコンテンツファンド」への参加

急成長するスマートフォン市場への対応として、コンテンツへの投資ファンドに参加

## 成長が続くスマートフォン出荷台数推移（世界市場）

（出所：富士キメラ総研）



## 「スマートフォンコンテンツ1号投資事業組合」の設立に参画（ファンド管理者：(株)アイシーピー）

### ○ スマートフォンコンテンツへ投資を実行

	PC	iPhone iPad	Android	多機能型 携帯
SNSアプリ・ゲーム		未成熟市場    今後も成長が 見込まれる		
SNS (コミュニケーション)				
コンテンツ配信 プラットフォーム				

- 有限責任組合員として参加(リスク低減)
- 当社のほかネット・ビジネス大手も参画・協力することで、投資案件の発掘・支援も完備

テレビゲームのみならず急成長を遂げているスマートフォンゲームなど幅広いゲーム分野のトレンド吸収により、今後の事業戦略展開の可能性を拡大。

# ゲーム情報サイト事業の開始

(株)ベーシック社と提携し、ECビジネス拡大に向けたゲーム情報サイト事業を開始

(株)ベーシックは、毎日新聞社が注目の企業として毎年選出をする「注目企業50」に、2011年に選ばれた企業です。



## ゲーム情報サイト事業の開始

当社が、ベーシック社の子会社である(株)キヅキへ資本参加

オンラインゲーム、ソーシャルゲームから家庭用ゲーム機器まで、全方位的な情報を取り扱うサイトを構築



●ゲーム販売で長年構築した事業ネットワーク

●ゲーム販売等での長年のECビジネスの経験、実績

→furu1online楽天市場店が、「楽天市場」の中からおもちゃ・ホビー・ゲーム部門の2011年12月第2週の週間ベストショップに選定

●webマーケティングの分野では、国内屈指の企業グループ

●多様な領域での豊富なサイト運営の成功実績

●既に子会社キヅキにおいてゲーム情報サイトを運営

両社の協業により、他にないゲーム情報サイトを構築しECビジネスの成長戦略を加速

# プリペイドカード事業参入の本格検討

プリペイドカードを中心に先進的な決済システムを国内で提供

## プリペイドカード事業参入の本格検討

日本国内で利便性と安全性を持ったプリペイドカードを発行し、新しい決済サービスを提供



Card Flex社のノウハウ利用



**プリペイドカード** (VISA, MasterCard等のブランド付)

クレジットカード  
の通常支払機能

+

- ・カード利用のリアルタイム管理
- ・カード間の資金移動機能
- ・資金の引き出し機能
- ・銀行口座への振込機能

**支払い機能 + αの各種機能・サービスを提供可能**

予め入金した金額の限度内で商品代金を支払いするなどの機能を持つカード（プリペイドカード）を使い、クレジットカード・ネットワークを利用して、ユーザーが安全・便利に購入できる、新しい決済手段を提供

## プリペイドカード事業参入の本格検討

### ※Card Flex社の概要

商号：Card Flex Inc.

設立：2007年

代表者：President and CEO Andrew M. Phillips

資本金：1百万US\$ (2011年12月末現在)

事業内容：クレジットカード決済サービス提供、プリペイドカードの発行

本社：2900 Bristol st. Costamesa, California 92626, US

従業員数：37名 (2011年12月末現在)



Andrew M. Phillips

2007年に設立された会社ではあるが、25年以上金融・サービス業に携わってきたAndrew M. Phillipsのノウハウをそのまま活かすべく設立された会社であり、プリペイドカード業界ではアメリカ合衆国で中堅企業。

Andrew M. Phillipsは支払関係に必要とされる最先端技術、販売計画および運用システム構築の専門家であり、このような事業を営む会社を2度設立し、成功に導いた経歴をもっている。今度のCard Flex社はアメリカで成功した起業家の彼が設立した3番目の会社であり、彼のこれまでの技術のみならず、市場のニーズを読む経験等が融合された会社。

# プリペイドカード事業の戦略性：新しい決済機能の提供による戦略強化

新決済サービスの提供により、既存事業の成長戦略強化と、将来への布石を同時に行う

テイツー

実際の事業運営

プリペイドカード事業

CardFlex社

技術、ノウハウ提供

短・中期での業績押し上げ・既存事業とのシナジー

店舗・EC決済の利便性向上

店舗・EC決済の安全性向上

決済手続きの収益化

中・長期的なテイツー・グループのさらなる成長戦略に向けた布石・準備

ECビジネスのさらなる拡大

当社店舗・EC以外での利用拡大・普及

成長戦略を補強し、さらに加速する事業として推進してまいります

# 人財戦略の強化

事業戦略(新規事業・市場の創出、中核事業の再構築)推進に向けて戦略を整備

採用

成長戦略を理解し、会社と一緒に成長したい人財を採用  
各種の素養を持ちつつ、可能性に挑戦しようとする成長期待型人財を  
新卒採用し、会社で不足している技能を補う実戦力として中途の採用  
を実施する。

育成

3段階の能力段階に合わせた研修実施  
基礎能力強化(ベーシック)、適正に合わせた専門能力強化(プロパー)、  
事業展開能力の培養(ミッション)の3段階の研修制度を導入し、  
会社の使命を深く意識付けするため、研修プログラムを内製化。

配置

個人の能力を最大限発揮できるような人財配置の実施  
事業戦略との連動を軸に、「能力要件を満たす実戦的人財登用」  
及び「高い成長期待に対しての戦略的人財登用」を大胆に実施。

事業戦略を支える人財戦略

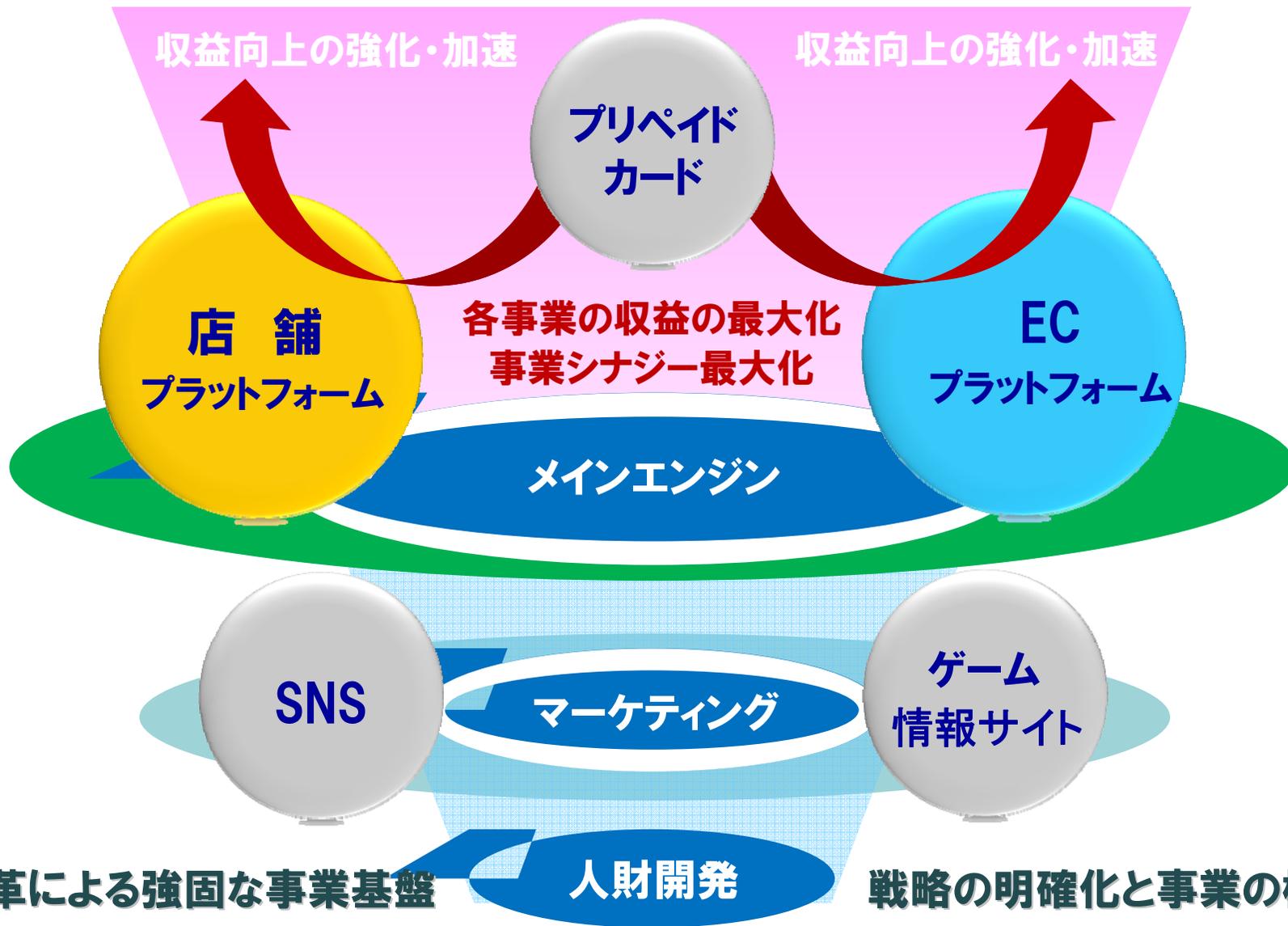
新規事業  
及び  
新規市場  
の創出

中核事業  
の  
再構築

心(思考)・技(技能)・体(意欲)を持ち合わせた人財により強力に事業を推進

# 成長に向けた経営改革 第2フェーズの準備が完了

確立した新たな事業モデルのもと、さらなる事業領域、収益基盤の拡大



# 長期・継続的な成長に向けた取組みを開始

各段階において、目的を明確化した成長戦略を確実に実行

2012/2期

2013/2期～



第2フェーズへの準備…

- 「ゲーム情報サイト」事業の開始
- 「プリペイドカード」事業の開始
- SNS事業のフル活用開始

新規事業基盤の確立・収益貢献

● 第2期への準備

確立した新規事業基盤の下  
事業領域、収益基盤を拡大  
別途新規事業の検討

明確化した成長戦略を確実に  
実施していくことと並行して、常に次の  
成長戦略に向けた準備を進めてまいります。



# TAY TWO

參考資料

## 会社概要

---

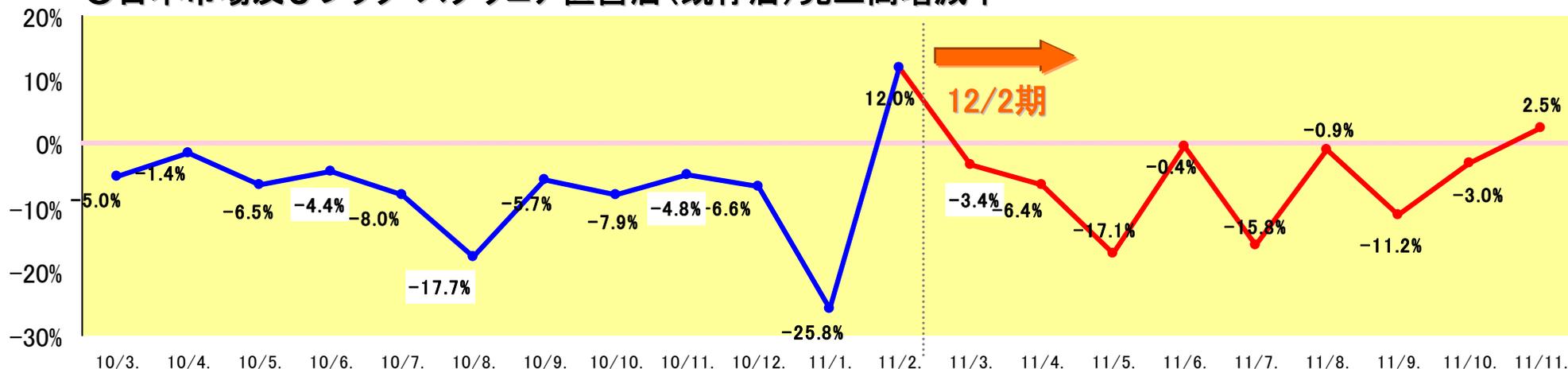
社名	株式会社テイツー（英訳名 TAY TWO CO.,LTD.）
設立日	1990年4月16日
上場日	1999年9月14日：JASDAQ
本社	岡山県岡山市北区今村650番111
東京本部	東京都品川区西五反田7-1-1住友五反田ビル5F、6F
代表者	代表取締役社長 堀 久志
事業内容	1.古本、TVゲームソフト・ハード、CD、DVD等の新品及びリサイクル品の販売・買取 及びビデオレンタル業務、コンビニエンスストア「Family Mart」の運営 2.インターネットサイト「furu1online」の運営
従業員数	正社員 407人、パート・アルバイト 1,200人 計 1,607人(2011年11月末現在)
資本金	1,165百万円(2011年11月末現在)
発行済株式数	551,400株：単元株制度なし(2011年8月末現在)
株主数	5,932名(2011年8月末現在)

# 〔ご参考〕 古本市場及びブック・スクウェア 既存店の状況

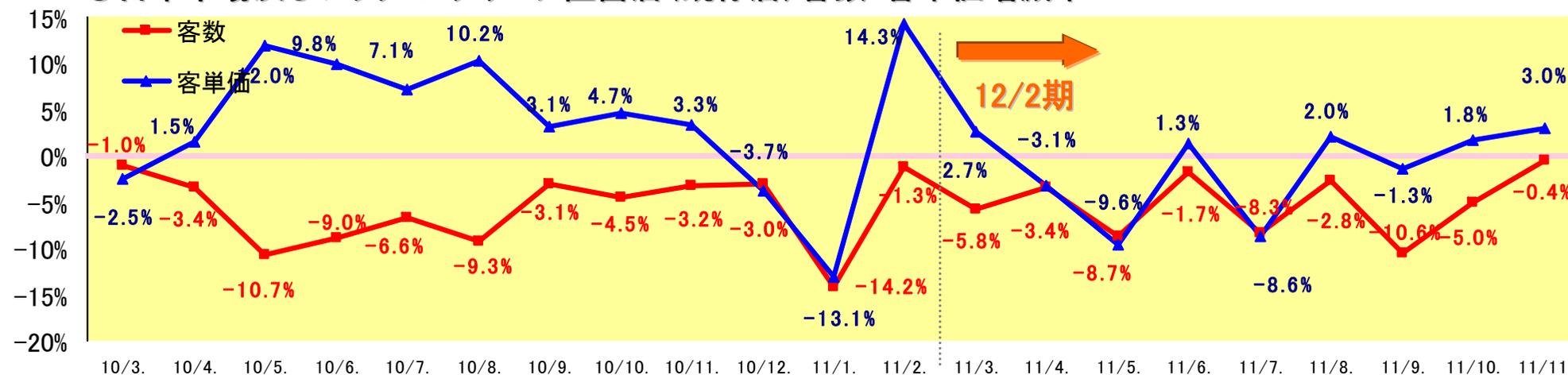
リサイクル品売上高が堅調に推移し、震災の影響を最小化

12/2期 3Q累計  $\Delta$  6.4%

○古本市場及びブック・スクウェア直営店(既存店)売上高増減率

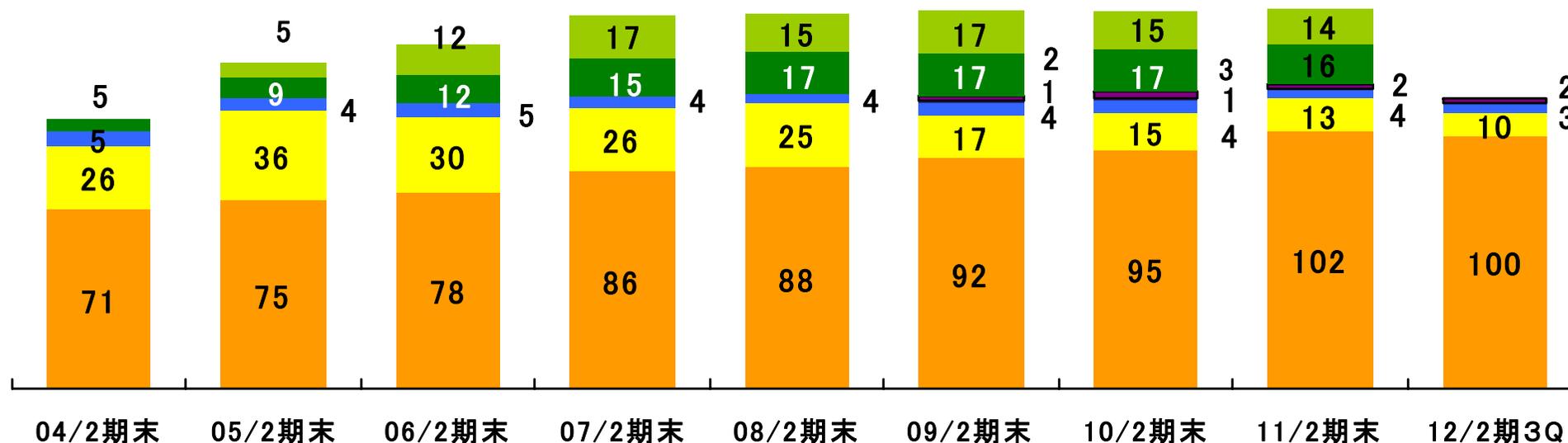


○古本市場及びブック・スクウェア直営店(既存店)客数・客単価増減率



# 〔ご参考〕 2012年2月期 第3四半期 店舗の状況

■ 古本市場 直営店    ■ 古本市場業務提携・FC店    ■ ブック・スクウェア直営店    ■ DonDon Down  
■ Family Mart    ■ アイ・カフェ直営店    ■ アイ・カフェFC店



	2011/2期		2012/2期				増減数
	期末	出店	退店	※ 業態変更	※ 事業売却	期末	
古本市場直営店	102	1	△ 2	△ 1		100	△ 2
古本市場業務提携・FC店	13	—	△ 4	1		10	△ 3
ブック・スクウェア直営店	4	—	△ 1	—		3	△ 1
アイ・カフェ直営店	16	—	△ 2	—	△ 14	—	△ 16
アイ・カフェFC店	14	—	—	—	△ 14	—	△ 14
Family Mart	2	—	—	—		2	—
<b>合計</b>	<b>151</b>	<b>1</b>	<b>△ 9</b>	<b>—</b>	<b>△ 28</b>	<b>115</b>	<b>△ 36</b>

※古本市場1店舗は直営店をFC化しております。

※アイ・カフェの直営店14店舗、FC店14店舗の減少は、アイ・カフェ事業部門の売却によるものです。

本資料は、2012年2月期第3四半期累計期間の業績および今後の経営ビジョンに関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資を勧誘することを目的としたものではありません。また、本資料は2012年1月12日現在のデータに基づいて作成されております。本資料に記載された意見や予測等は、資料作成時点の当社の判断であり、その情報の正確性、完全性を保証し、または約束するものではなく、また今後、予告なしに変更されることがあります。

IR窓口：経営企画部 荒井、藤原、徐(そう)  
TEL03-5719-4775 FAX03-5719-4583  
E-mail: [ir@tay2.co.jp](mailto:ir@tay2.co.jp)